(英和語羅馬字對譯挿入)

A translation to the English from the Japanese contained.

女學叢誌

驛遞局認可　明治十九年二月二十日　毎土曜日發兌　第十號

此の繪の說明ハ本紙中ニ在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目壹拾番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第十號目次

●官衙と學校との彙聞●女學叢譚●歐米女學の枝折●和英語羅馬字對譯（いろは骨牌）●内外烈女傳白柏子微妙のはなし●表書傳●（十）宋の太祖の姊の事●サシユリツチの話し（承前）●女學●日本玩具も西洋の玩具との比較●女用文詞の説明幷ひに活らき●歌よむ心かけ●英學手引草女紅●切りぬき細工●料理の献立（承前）●化粧のまき●詳芳詞苑●詞花古今集●机の塵●内外雜報諸廣告

明治十九年二月二十日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に内規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替劵を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日、	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○官衙と學校との彙聞

◎皇女御降誕　權掌侍東園祥子にハ去ぬる十日午前二時めでたく分娩され皇女御降誕せさせ給ひしよしに承たまり侍りぬ（去る十三日讀賣新聞）

◎華族女學校　此の學校ハ皇后の宮の御旨にて建させられ宮内省の御支配なる事ハ皆人の知る所ろなるが今度それ〴〵御改正ありし旨本月十日の官報に見へ侍りぬれば抄錄して大方に告まひらせん

●宮内省第二號

華族女學校職員及び官等俸給を改定すること左の如し

明治十九年二月十日　宮内大臣伯爵伊藤博文

奉　勅

第一條　華族女學校に左の職員を置く　長、學監、幹事、教授、助教、書記○第二條　長一人勅任とし宮内大臣の命を受け學校の事を總理す○第三條　學監一人奏任とす長の命を受け教授及び校中の事務を監督す○第四條　幹事二人奏任とす長の命を受け庶務を幹理す○第五條　教授ハ奏任とす生徒の教授を掌る○第六條　助教ハ判任とす教授の職掌を助く○第七條　書記ハ判任とす長及び幹事の命を受け庶務に從事する

○第八條　女學校職員等級及び俸給ハ左の表に依る

長　勅任	年俸	三千圓	二千五百圓	
學監奏任	同	千八百圓	千五百圓	千二百圓
幹事奏任	同	七百圓	六百圓	四百圓
教授奏任	同	千八百圓	千五百圓	千二百圓
		千百圓	千圓	九百圓
		八百圓	七百圓	六百圓
		五百圓	四百圓	
助教判任	同	四百圓	三百五十圓	三百圓
		二百五十圓	二百圓	
書記判任	月俸	二十圓	十五圓	十二圓

◎同拜命　右につき下田歌子ハ學監となり佐野安子ハ教授となり學習院幹事兼教授工藤一記君が幹事兼教授となり色川國士君が教授兼幹事に拜命れました

◎谷間の櫻　我が女學叢誌ハ何ゆゑに度々斯る善行を記す榮へに逢や實に末たのもしき事よと獨り言たふんにハ諸卿

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ定めし怪しく思をなるべし玆に詳に記して庭の訓の料に充んと欲する咄しハ和泉國日根郡尾崎村小ばやし宗四郎の女にゑんと云ものありける幼稚ときより父母に能く仕へ孝女との評判たかく賞そやさぬ者なき處ろ憫れにもゑんが十歳の春母親ハ病の床に臥し重き枕らに沈ミしものからゑんハ幼な心にも痛く心配し晝夜の差別なく枕邊に在て看病し辛苦を盡せる甲斐もなく十年たちて亡人かずに入ければゑんの悲み何に譬へん空蟬のもぬけ如く慟さけびて食さへ癈し程なるを見る人毎よ貰ひ泣して感じける其後宗四郎ハ後妻を娶りて家の事を委せけるにゑんハ生の母の如く敬ひ侍きける程に後妻も亦たゑんを生の子の如く慈愛み一家の和睦なる人の見る目も羨やまれたりゑん漸やく生長せしを以て後妻の甥の何某を迎て之に妻せさるに甥ハ生得の懶惰もの〻上へ博奕を好み家の資産さへ追々と遣へ捨しのバ宗四郎ハ痛く腹立て之を戒しめしも更に用ひず遂に父母妻子を棄て逃去りたり然るに後妻ハ流石に甥たるの情よ引され密かに甥に身繼し度々財物を與へたる爲め身代漸やく傾むきたるに宗四郎ハ大に驚ろき且つ怒り遂に妻を責て逐出さんとするをゑんハ泣て之を和め止め自のら手一ツよて織紡ハ云も更なり田畑の事までも勵み勉め父母を養なひ小兒を育み少しも怠たる色なく或人さぞ辛からん後夫を迎へて共に家事を治めよと勸むれども固く辞て從がハず斯の如きこと十五年の長の年月なりけれバ知る知らぬも其孝と貞烈を嘆賞せしかば遂に女子の鏡なりとて左の如く褒章せられたり

大坂府下和泉國日根郡尾崎村　小林ゑん

資性順良實母存生中能く孝養を盡し爾來父及び繼母に事へ承歡怠たる事なく一家親睦玆に十有餘年志操一日の如く洵に奇特とす依て明治十四年十二月七日　勅定の綠綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

明治十八年十二月十六日

◎訓導拜命　加藤てう子にハ去る九日東京府廳にて小川小學校の三等訓導を仰せ附られました

◎御歌掛り長　式部次官の高崎正風大人にハ去ぬる六日御歌が〻り長に相成れしよし

◎音樂　音樂取調所に於て規定めし科目ハ修身。唱歌。洋琴。風琴。箏。胡弓。專門樂器。和聲樂音樂論。音樂史及び音樂教授法の十一科とし修業年限を四年となせしと而して本年末しらべの生徒の數ハ諸學校にて一千百五十四名なりと（文部省十七年表）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎女學叢譚

◎學びに男女の差別なし　山里の賤の女

我が國むかしよりの慣習に男子と女子と學ぶ物を異にし男子ハ四書六經より左國史漢ろれより進む者ハ十三經廿一史などゝ數かきりもなく候て其區域もなはだ廣く且つ其學ぶ目的も僅かに其身一人の爲ならず普ねく天下の爲にせしに引かへ女の子の學びハ其身の爲一方に候なる女今川女大學或ハ女論語などの僅かの物に止まり其餘に讀むものハ伊勢竹取落くぼなどの物語或ハ徒草然土佐日記るゐろれより進む者ハ源氏物語一部わるのみなりし。抑々四書六經と女今川女大學と何れが佳書に候や左國史漢と伊勢竹取徒然草と何れが爲になる書物に候や況てや十三經廿一史と源氏物語をや少しく學びの道に入たらん人ハ必らず男子の學ぶ書を可とし女子の讀む書ハ可らずとの玉ふならん此れ一方ハ正史にして古への成敗の跡を見て今に引くらべ世を治むるの益わるも一方ハ作り物語にして漸々文章を連ぬるの他に功なければなり是に於てゐ我邦の女子ハ天下の形勢にハ更に心を留めず政事の善惡ハ露はども辨まへず只だ女子ハ男子に引まハさるゝ者と覺悟せし今の有様に陷りしに候ハそや否か

今や世の中遷り變り男子の學ぶ道も古へと異なりて只箇實益なる西洋學に志ざし四書六經の沙汰ハ殆んと絶はてぬれば女子の學びも一變せでハ叶ふ可らす此れ自然らの理りに候左るに動もそれハ女學校の内にハ未だ尙は昔しの姿たを改ためず第一に身を修むる書物を讀しめ稍やく高尙なるに及びて歷史等も授くと雖ども此れまた十八史略國史略の二三に過ずしてそれより進めば依然として伊勢竹取土佐日記源氏其外歌學の書を讀するの傾むきわるハ妾の深く訝しむ所ろに候何に申せば第一の修身書ハ此れ最ともさるべき事なれハ敢て彼此と弁するに遑まこれなく候へども伊勢竹取源氏の如きハ畢竟鬱を慰さむる戯作本にして此の明治の世の中に立て男子と倶に我邦の幸福を増さんとする女子にハ用なき書なり文明の進歩を計るに功なき書なり光陰を惜み晷の移るを誡しめなゐら其の學齡の少女に斯る書を讀するハ此れ今の少女をして更に昔しの卑屈無氣力の有様に陷ゐらしめんとするに候ハずや夫の今の少女ハ第二明治の母なりと云ふ口もて何すれば斯はかり給ふぞ第二の明治ハ斯る敎へをうけし少女の手になるも苦しゐらすと思はし給ふや豈にろれ然らん然らハ則ハち學びに男

百五十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女の差別なく宜しく男子と學びを同一にして後々の榮の種を蒔たまふべし。洋學澤なり政治。法律。哲學。論理。理學。化學。金石博物など獨り男子の爲に備へし者ならんや女子も亦よろしく勉め學ぶべきなり若し夫れ斯る學びハ女子のそまじき者せば之を歐米の眼ある博士に問ひ給へかし妾ハ之を辨するに物うし

◎歐米女學の枝折

○慈善婦人の祝詞　　　菰月嶺風樓重譯

此游戯ハ想像力とを強そると書記とと又美麗き詞を發するとの三ッの益ある慰さみなり之を爲す方法ハ先づ友垣の內にて丈高き女子を撰みて慈善婦人となし坐敷の上坐の椅子に掛させ其他の女子ハ皆な下坐の方に立なり而して唯一人上坐と下坐との眞中に立つ之を陪審官と名く斯く調のひし上にて下坐の女子ハ一同に慈善婦人を拜す此の時陪審官ハ左の詞を發す

嗚呼玉坐に居たまふ慈善婦人の姿ハ丁度我が皇后の宮の似させられたり貴女等ハ美麗き詞ばを似て此の婦人を視し給へかし

之を聞て各々ハ順番に陪審官の前に至り慈善婦人を祝する詞ばを耳もとにて密と云ふ陪審官ハ之を聞が否や石版に其通り書記し殘らず祝し終り書終りし後ち陪審官ハ始めより順に高聲にて之を讀わぐ。慈善婦人ハ之を聞毎に其祝詞の作者ハ誰く々なりと云ひ的るなり若し慈善婦人云ひ的ざるときハ其度毎に一ッ何々の罰金を出すものとす其例次號に出すべし

○いろは游戯（承前）

阿島姐（ヨ）妾ハよと愛を等しくします彼ハ能く粧飾をなし善事をのみ勤め讀書を勵み悅び事に逢ばなり左りながら又憎とあり彼ハ宵ハりの朝寢坊のうへ慾心おほく萬まめやかならず而して妾が名を夜鷹と名け夜這星と云ひ又艾餅嫁菜蘆四手網にまで用ひたり彼ハ女子にてよしと申し昨夜横濱の吉田橋邊の四番地より參りました

阿石姐（タ）妾ハたと同じでありまそ其故ハ彼ハ弱女なれと猛き氣ありて魂ひがそハりて居るなり然れとも亦た惡む故あり彼ハ常に闘爭を好み誰にふとも聞ず他愛なき者なればなり其上妾が名を鷹の號とし團子にも卵燒にも太々餅にも用ひ又大根卸煙草盆篦箍に名付ました彼ハ玉吉と申して丹後の竹野より來ました

阿淺姐（レ）妾ハれと愛する者が同じてありまそ彼ハ禮義を知

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

てよく行なひ廉耻を重んじ連歌をよく爲まされバなり然し
また嫌ふとがあり彼は練化石を荷ふ劣等の波世をし連中に
憎まれたり又妾が名を取て漁夫料理屋と號し連根れんじに
まで用ひたり名を禮太夫と申して靈岸嶋邊に住居するよし
阿筆姐(フ)妾はふと愛が一ッてあります彼は暗記を能くする
のミならず珠算に精ければなり妾は又彼を厭ふことあり彼は
空言を云ひそゝかしく若干の人を唆のそか故なり彼は妾か
名を蘇鐵蠶豆蕎麥の名とし雪船十露盤に用ひました彼は名
を染八と申して曾我中村の染物職だと申します
阿園姐(ツ)妾はつを愛します彼は綱渡りに妙を得また謹しミ
のよき者なればなり左れども又憎むべき故があります彼は
固罪人にて追放者となり逐笑輕游よて面の憎き者なればな
り彼は又妾が名を鶏燕と號し又茅花躑躅山茶花に名づけた
り彼は筑紫の鶴崎の者にて蔦藏と申します
阿蝶姐(テ)妾はねと愛を同じくします其故を申せば彼は誠に
懇ろにて念に念を入ればなり妾は又憎む所由もあり彼は佞
人にて常に睡眠を好み年中游び居が故なり而して又妾が名
をねだるにも云ひ瞋睨るよも云ひ猫にも赤子よも用ひたり
彼は寝惚先生と云て根岸邊よ下宿するよし

阿波姐(ナ)妾はなと好ものが一ッで御坐ります彼は謎をよく
解情ある上並々ならぬ望ミを持バなり左りながら惡む所ろ
もあり彼は懶怠ものにて活計もあく泣言のみ申せはなり而
して妾が名を鯰と申して月給取の諢名とし蛞蝓と云て他を
忌からせ又棗梨にさへ名つげ天刑病にまで及ぼしました彼
は奈良の者にて鉈刀吉と云ひ難澁の爲に浪花へ生活を求め
に來ました
阿輕姐(ラ)妾はらを愛します彼は樂を後にし苦を先にし又喇
叭をよく吹き來年の用意を今歳すればなり然れども又憎む
とあり彼は乱暴にて埒もなき事ばかりし其上浪費されればな
り彼は又妾が名を牢屋欄間に名づけ或は薤白炒米餻及び蠟
虎に用ゐたり彼は蘭助と申して洛東の者であります

○西洋謎新題

(　)余は衆人の通路にありと雖ども少しも人の邪魔になると
なし余が一本の足は日々平地に在り而して余が頭に木を横
たはせて釘をうたれるり

(　)余は人体あるに相違なきも未だ慈母の教育を受しとなく
又人ほどの感覺もなく生命の有無も知らず余は立派な衣裝
を着て少女に愛せらるゝと甚はたしく下へ置ぬ扱かひを受

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て安樂なり左れども余ハまた衰ろへる時に逢バ少女に酷き目に會ひ裸にして棄らるゝの悲しきあり

◎和英語羅馬字對譯〔いろは骨牌〕

(和) 旅ハ道づれ世ハ情

(羅) Tabi wa michizure yo wa nasake.

(英) Companion on a journey is so important as kindness in the world.

(和) 靈藥口ににがし

(羅) Reiyaku kuchi ni nigashi.

(英) Wonderful medicine is not agreeable to the taste.

(和) そうりやうの甚六

(羅) Sōryō no jinroku.

(英) Elder son is not always wise.

◎內外烈女傳

○白柏子微妙のはなし

鎌倉の將軍賴家卿の頃白柏子に微妙と云ふ者ありけり本を京都の由緒ある人の女なるが志さすとありて鎌倉に下りけるに其艶美きと海棠の雨を帶る風情ハ物かハ普賢櫻らの咲初んと赴むきありけるゆゑ評判忽まち鎌倉に立しものから賴家卿ハ比企能員の家に御成ありて酒宴を催ふし微妙を召て舞を奏させける其態度の妙にして天津乙女の舞もよもや此にハ如じと見へたる故觀る者稱嘆ぬハなかりけり能員ハ密かに微妙の志ざしを推測り此女の遙々京都より來れるハ定めて深き子細ぞあらんと之を賴家卿に申しければ賴家卿も左こそあらん然らざれバ此女の當地に來る理由なしとて親しく召して其由を問ハれけるに微妙ハ兩眼よりハラ〱と涕を流し何を隱し申すべき妾が父ハ右兵衛尉爲成と申し往る建久年中或人の讒言に由り罪を得て蝦夷が嶋根に流され候ひぬ爾してより後ち母人ハ之を憂ひ遂に重き病に沈み敢果なくも黃泉の旅に赴むき候。時に妾ハ僅かに齡七歲にして家族親族の賴るべきなく悲しき境に日を送りて漸やく成長となりぬるに隨かひ父を相見

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

んその心はまそく切なれども其
消息を聞よ由なく白柏子とならば
多くの人に見へ参らすゆゑ早晩か
便りを得るのよそがも有んと已と
を得ず斯る賤しき業をなし候にて
他に何の望みも候はじと涕だ片手
に物語れば頼家卿も能員もほとゝ
ふ感涙を催ふされ其は憫然のとな
りけりと直ち使者を陸奥に遣はし
國の守に命じて尋ねさゝのし給ひし
に爲成には疾く病て死せりとの返
事なりければ微妙は望みの綱たち
まち切て慟哭しみ幾んと絶入んば
かりなりしを人々の慰さめに吾に
戻り斯くあるにもわらずと忽まち
緑りの黒髪を薙て尼とあり名を持
運と改ため父の菩提を弔ふひしか
ば頼家の母政子には深く其孝心を
感じられ殊に之を憐れみ居宅をさ

百五十五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

へ賜はりて其素懐を遂させけるとなん

○表壽傳（十）

○宋の太祖の姉の事

ジヨンソンの曰く人の英才と云は偶然一方に向ひたる一ッの大なる勢力の心なりと。實に左ると宋の帝太祖と申しけるは名を匡胤と云ひ洛陽禁衛將校超弘殷てふ人の子なり周の世宗と申す帝に仕へ軍事の政とを掌と凡そ六年なりしが仁慈にして士卒を憐れみ之が爲め大に名望を受け屢々敵國を討て大功を立たり後ち點撿となる。世宗死して御子恭帝天子の位に卽く其翌年匡胤を宿衛てふ高官を兼帯せしめ契丹を討つの勅のりを降し給ふ然るに恭帝御年倘は弱くおはして政事と〻のはざりければ人民は其國の危ふきを怖れて天子を換んとの議を起して内外とも囂そく今や家國は傾むかんとする勢ひなるに匡胤は之を屑かすともせず大軍を率ゐて出陣したるに偶く日輪の下に又日輪あらはれたりければ軍卒等は之を見て天既に命を革たむるの兆しを示せりと云はやし其日陳橋と呼ふ驛路に陣を取しが軍卒一同相議して國家の運命も最早盡たり宜しく匡胤を立て天子となし然して後ち愉よく北征すべきなりと夜の明るを待て匡胤の軍營に至りたるに匡胤は醉臥て更らに之を知らず軍卒が寢所の門を叩くに驚ろき起て其故を問ひけるに異口同音に謹んで申しけるは諸將 主とすべき人なし願くば大尉を立て天子となし國家の衰運を還さんと欲そと匡 胤大に驚ろき先づ衣を着せんとするに諸將集まり來りて黄なる天子の衣服を着せ一同敬禮再拜して萬歳と唱たるゆゑ匡胤如何ともする能はず則はち馬に打跨かりて家に歸りて人々に向ひ諸將我をして天子となさんと洶々やむ事なし如何せば可けんと語るをりしも姉は厨下に在て之を聞と等しく麵棒を携へ來り擊て叱て云は大丈夫大事にのぞみ可否とも自から決そべしなんぞ家に來て之を問やと大に罵しりければ匡胤は默つて家を出で遂に天子の位に卽き宋の天下を定めたり斯の人にして斯の姉あり羨やむべきの事にこそ

○サシユリッチの話し〔承前〕

西哲ホッブ氏言へること有り他愛わ私愛より生づと宜なる哉孺子の井に陷らんとするを見て怵惕惻隱の心を生づるは自巳の心頭に其苦痛を受くるが如く推想るより出來るものにして人として誰れか此感覺無ふんやされば今被告ウエラ、サシユリッチが運命は陪審官等が一言の有無に決する有樣を傍聽席の人々は耳欹立ち目瞠そば數叩きつ〻見居しがまた證方もわ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

らざれど只愍然と思ふより外はなし此時聽衆を押し分けて現れ出し一個の壯士我能く此烈女が運命を救はんものをといひながら法庭の中央にぞ進み出ける

抑も此壯士は何者ぞ強暴壓制限りなき魯國政府が取分けて虛無黨類似の事といへども蛇蝎の如く忌み嫌ひ非常の嚴科極罪に處せらるゝのを知ながら一等警視を狙擊せしサシユリツチを救はんとは。滿腔の悲憤能く此の一片の義氣を奮ひ起せし者とはいへ亦是空前絶後の壯士世に有難き義俠といふべし」

壯子其名をアレキサンドロフと呼び且て法律の學に長じ其道己に藍出の譽れあれど未だ人の爲に代言辯護せしと無く少女サシユリツチに對しては一面の識半面の舊だになしと雖も此日此烈女が生死に係れる一大事を傍觀するに忍びずして偖てこそ斯くは大撿事が熱心なる論告を辨解せんとは爲したるなり」却て說くアレキサンドロフは裁判長の許可を受け靜かに被告の傍を離れ辯護人の席につき先づ端然と正立しハンケチーフを以て其口頭を拭ひ今回の事件につき辯護人たるべき旨を尤簡短に述べ終り其以前己れが未だ傍聽席に在りたるとき大撿事が論告の要點を筆記しながら其朋友と私語あひたりし覺書を左手に持ち綽々論弁を始めたりけり其言に曰く」ゴスポタ諸君よ諸君ゴスポタとは紳士といへる意にして陪審官亦裁判官等を指す諸君は今日今大撿事が聽敏にして且猛烈なる糾問を聽き玉ひつらん我をして若し此糾問中の事實に對し論辨を試みんとすることあらしめば我は是吾が同志の附託に負むくなり我今諸君の諦聽を煩らはさんとする者は決して今日糾問の事實に對し非なりとして爭にあらず被告が吾帝國の高官を殺さんと企てし豫ての備へ并びに謀殺に手を下したるは已に數多の證據ありて事實決して疑ふ可き者にあらず已に疑ふべき者にあらずとせば今更吾儕が何樣に心を碎き言を盡して此を弁解んとするも到底得べからず我豈益なきに辨を費さんや然れども今回此の事件に關し一の連帶の事情あり故に我は今ま此事情を陳べて以て諸君の諦聽審按を願はんと欲す諸君よ乞ふ暫時清耳を傾け給はん事を

○女學

○日本の玩具と西洋の玩具との比較

敎育博物館案内を見しに玩具の事を書記されたり人の母となるべき方々の心得をくべき事なれバ面白からざるも抄錄して益を分たん其書に云は

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

抑も本邦の玩具ハ唯だ兒童の眼を喜こばすのみにして敎育の助けとなるもの少なく加之其製の堅固ならざる爲め破壞やすく或ハ形狀の實物と大に異るを以て兒童をして誤解せしむるの害なき能ハず其嬉遊中に訓育の意を寓するもの極めて少なく動もすれバ有毒性の彩料を用ふる者あり實に恐るべし故に其製作に從事する者ハ少しく是等に意を注ぎ第二函に排置せる外國製の玩具るゐを參酌折衷するときハ必らず善良の玩具を製出するに至るべし(右ハ日本の玩具の評)

此函内の玩具ハ皆外國製にして本邦製のものに比ぶれば其數甚はだ多し蓋し彼の國に於てハ家庭敎育の忽せにすべからざるを知り玩具製造者も亦意を此に注ぎて之に適する物を製出すると多きを以てなり此にハ嬰兒の玩弄に供する極めて單簡なる玩具より進みて其成長に從がひ漸次智能を發育するの功ある物に至るの順序を逐て陳列す即ハち第二函にハ。鞠類。蒸氣車船の雛形。風琴等の如き智能の未だ發達ざる嬰孫にたゞ耳目等の働らきを習はしむる玩具を陳べ第三函にハ稍や成長せし幼兒に專ばら手指を使用せしめ兼て智能を訓練するに適ものを排列る假令ば組立繪。組立地圖。切拔細工。等の如し(右ハ西洋玩具の評なり) 何れが善か心に問ひて撰み給へかし

○女用文詞の說明し幷びに活らき

○日にそへてハ　日にましてに同し何事にても自然と日々にそれれるなりそひてと云ば此方からそひてゆくなり

○いやまし　いやハいよと同じ彌ますなりやへ櫻やへ山吹などのやへハいもじを省かれしなりいやがうへいや高くの如し

○百千鳥　もゝつと鳥なりひとつ。ふたつ。のつと同じ。はたち。みそぢ。こゝのそぢ。と數ふる詞ばのち。なり千にハあらず百つ。ハたゞ數の多きと知べし

○かてらハ　かた〴〵と同じ是と彼とを兼るなり

○腰をれ哥　此ハ一首を五句に分ちて中の五文字を腰の句と云ふ腰の句の弱きをきらふゆゑ惡しき歌を腰をれ歌と云ひ我よみ歌を腰をれと事さら云ハ謙遜して云なり

○餘泪　此ハ泪殘りにて汀の波の寄て引しあとに聊さか殘れるを波殘といふなごりなふハ少しもなきなり

○いつしのハ　いつであろ〳〵と待遠に思ふ意ろ含みて遣ひしが今ハ過去しとも遣ふやうなれど正しとハ申しがたし

○をさ〳〵ハ　專らなり

○うらゝかハ　長閑に似たれど奇麗なる意をも含めり枕の草子にもうら〳〵霞むなどあり。いとめてうらゝのと云かハの

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

とかのみと同じ
○しかるハ　然るにて上を受て下を起す詞ばなり然れしかと
もさともいふ詞バに當る俗の左様あるなどに同じあ文字ハ省
かれたるなり。されバしかあれバにて左様と云ふも是より
出づ左様に御坐候などハ心得がたし

○歌よむ心かけ

冷泉爲村卿の詞ばよ。よき歌よまんと思ハずあしき歌よむま
じきと思ふがよろし又人毎にほめらるゝ歌をよみたがるゆゑ
あしく候わられぬ歌をよまんと心かくべしと。實にれもし
ろき誡めにこそ

○鵲

百人一首に名だかき鵲の鳥ハ東國よハあまり見へず古人も之
を見しと少なしと見へ定家卿の再來と云ハれし徹書記すら自
記の清巖茶話に。七夕が別れを悲しみて泣く涕だがかゝりて
鵲の羽根が赤くなり紅葉に似たれバ鵲の橋を紅葉の橋とも
云と記されたり然るに此頃評判高き夫の博物館の動物園へ飼
養せられし鵲を見しに何さま肥前にてカチ烏筑前にて筑前烏
と云ふ如く全体深黒にて光澤烏の皃の大さにて形ちも違ハず
只だ両翼の端と胸より腹にかけて白き毛あるの相違あるのみ
啼聲もまた烏に似て少しく雅致なるなり此圖ハ舎員が見て生
寫せしなれば實物と見做し
給ふも可なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○英學手引草

西洋ハ日本の如く詞の國よして文字の國にあらず故に四十六文字の內に母字五つありて他の二十一文字ハ子字となりて種〻の音を出すと猶ほあいうゑをの母字より種〻の音を出すが如し左に橫文字の母字子字を示さん

A a *a*
E e *e*
I i *i*
O o *o*
U, u, *u*,

以上の五字を母字と云ふ

B C D F G H J K L M N P Q R S T V W X Y Z
b c d f g h j k l m n p q r s t v w x y z

b c d f g h
j k l m n p
q r s t v
w x y z &

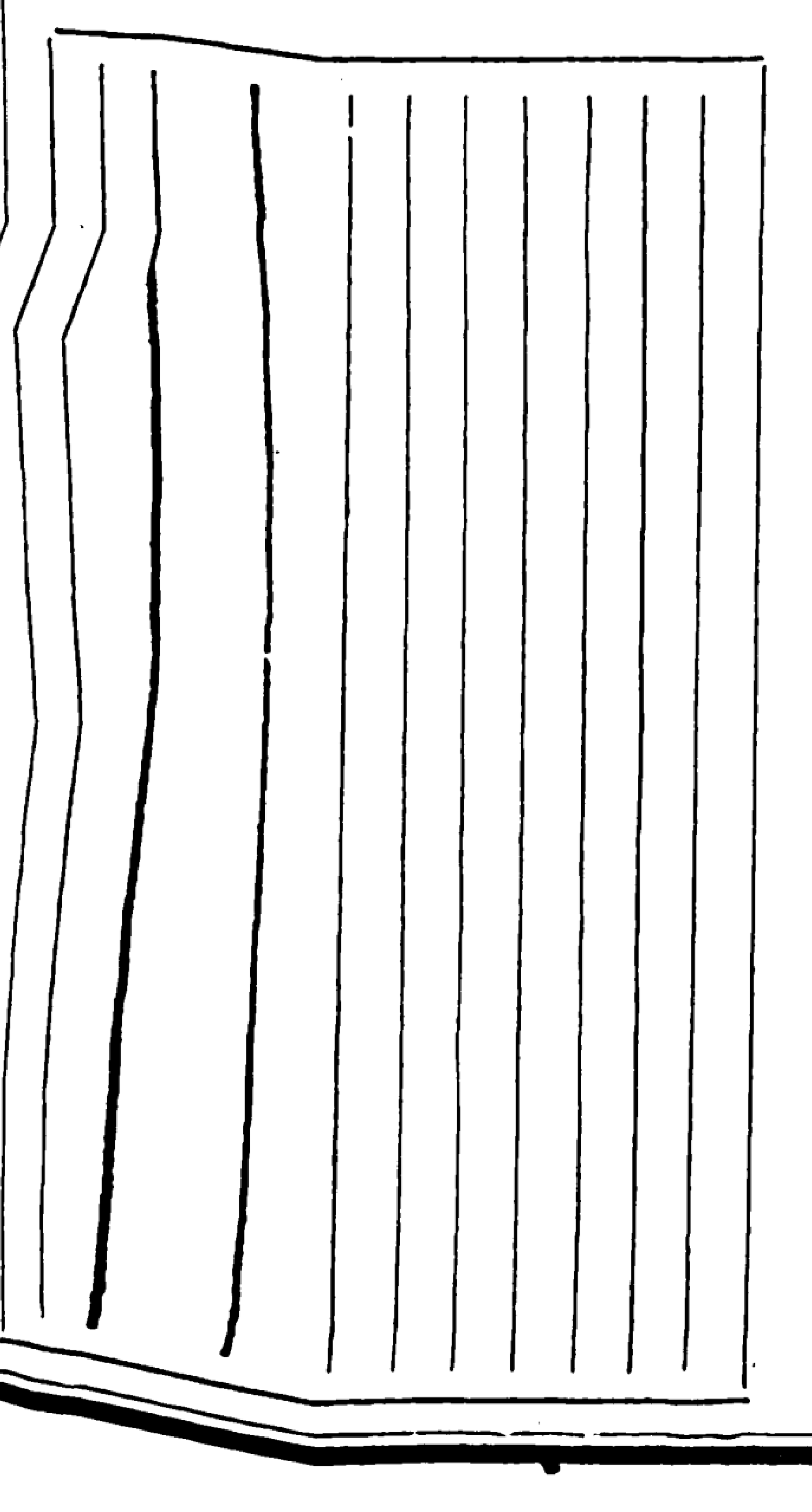
以上の廿一字を子字を稱し母字と子字と合して始めて音をなし音になりし者を又〻合して詞となるなり然るに詞ハにハ句切あり文に綴るに讀切あり又詞ばに輕きと重きとあり又ハ強きと弱きとそれ〴〵區別あり故に西洋にてハ符號と云ふ者ありて此の區別を定めたり其符號左の如し

(,)をコムマと云ひ少しの句切の號なり(;)を半コロンと云ひコムマを以て號たるより大なる句切に用ふ號し(:)をコロンと云ひ半コロンを以て號したるより更に其文の意味の全たく調のひし句切に用ふる號し(.)をペリオットと云ひ前の三號より更に重く句切りの意味全たく終りたるとき用ふ卽ハち一段をかりし處の號しと知べし(?)をインデルロケーションと云ひ疑ひの處を表ハす號しに用ふ(!)をヱキスクレメーションと云ひ感じたる所ろに用ふ號なり卽ハち嗚呼と云ふ所に號すが如し

◎女紅

○切ぬき細工

切ぬき細工ハ西洋にて少女の最ぱらなす業なり此の細工に種〻あれども第一に敎ふるハ左の圖の如くなる事なり此ハ意匠を進めるのみならず縫ひ織の手はどきとなりて餘ほどよき敎へとせり先づ



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

右の筋の如く厚き西洋紙を截りて而して別に赤黄青金銀其他色紙を細く截りて機を織る様に一々入ちがひに挿み入れ又ハ三筋ッヽ置てし又ハ斜めなどに組立れバ美麗き綿がら生じ之にて箱などを張ればよく玩具となるなり他へ御土産に用ふるに能き進上ものとなるべし

○料理の献立（承前）　夏の部

魚類

汁　鯉のすりながし　榎茸　細々に切りし紫蘇
鱠　小鯵　引さるぼう　ほんだハら　栗の細の目　葉付の青梅
酢相　罌粟酢　黄爪　推茸　色附のかんてん　茗荷だけ　紫蘇　葉生薑
杉焼　今出川豆腐　山鳥味噌かけ　割胡椒
墨焼　鯉切身　里芋　割山椒
二の汁　冷しすまし　串海鼠　海雲　栗生薑　紫蘇
指身　鯉の洗ひ　とうくらげ　川ちさ　山葵　いり酒
酒浸　鯛の子　もみのしたで
和物　皮附くじら　胡麻わへ　蕃椒
浸　章魚の瀬てくち切　ほうれんそう　胡桃
水和　焼麩　雞卵　けしの葉　刻み青梅
煮物　煮ざまし　牡丹海老　鮑　雞卵　筍うす切　青山椒
焼物　鱒かすづけ
臺引　鳩のいろづけ焼
吸物　半片の短冊切り　焼昆布
取肴　魬（さしの魚）の蒲焼
香の物　鹽おし瓜

以上

○化粧のまき

はと胸　胸つきの出たるを俗に鳩胸と云ふ總て胸の出たる風俗ハ襟つき揃ひてよろしと雖ども餘り出すぎたるハ見苦しそれを無理にかくさんとうつ向バ猫背の様になりて益々風俗あしくなるなり之を隠そにハ襟つきにて隠すべし衣類を着にあまり襟をうち合さず上着下着の襟をそろへて胸の間をわけ襦袢の襟をもるくして前へ引だしふッくりすれば風俗よく見ゆるなり

白粉の事　化粧をするにハまづ白粉をとくとを第一とすべしいか程手際よく化粧するとも白粉のとき様わるけれバ化粧して後ち白粉うきあがりて粉ふきたるごとくあらひ其上光澤を失なひ見くるしき物なれバ呉々も念を入れ給ふべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎群芳詞苑

○市中雪　疋田孝子
昨日けふあすの市女ふるゆきよ菅の小笠をきつゝうるかな

○　飯田守年
ふれとなほ市路ハ人の行かひよまた跡見ゆるゆきのあさくつ

○　大竹元一
いちひとの妻木めせてふ聲さへも降うつめたるゆきの夕くれ

○　中村澄確
咲はなとよそに見るらん東のいちのうえ木にかゝるしらゆき

○　並木信明
白雪にあすかの市路うつめともけふとさゝ先てつとふあき人

○　高山長勝
うるとのやすからぬ世やあさ市にゆきもおひつゝ出るあき人

○　篠田貞規
ふるゆきに沓音たえて車さえゆききまれなるいちのゆふくれ

○　臼井保邦
めてとよふ黒木にいつる白ゆきの寒さに市よひさきかぬらん

○　舩木眞登歐
買もまたさむさに堪ぬゆきの日もうるまの市につてふあき人

○峰炭竈　井上眞清
絶間なきけふりにしるし山樵かいとなみしけき峰のすミかま

○　都築靈源
たき捨て老翁やふもとに歸りけん烟ハうすしみねのすミかま

○　野村俊憲
山賤もなりハひしけきころならん烟たえせぬみぬのそみかま

○　増山三雪子
炭かまの底よや春のこもるらん烟りハみねにうちかすみつゝ

○　橋本信行
山かつの朝なゆふなのけふりさへ高ねにすみをやきて立らん

○若水　蘆野明日香
とく起てまづ汲そむる若水のすめる御代こそめでたかりけれ

○述懐　同じひと
消もやらす現れもせす埋火のうつもれてのみ世を經そうき

○節分の夜たハふれに　磐城棚倉　鈴木まる子
家とにたかくつひなふ聲すなり今宵いつこにおにのゆくらん

○筆　同じひと
石上ふりにし世々の言の葉をあつめてふてのとやしにそ見る

○墨　同じひと
するすみハよし黒くとも寫しゑてあかき心を世にしらせはや

○寄弓戀　糸廼家三糸
かくまてにこふれと人ハしら眞弓いつくのたそか心ひくらん

○友かきと別れに臨みて　同じひと
昨日まてともにかたりし言の葉もあすより筆に頼むかなしさ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

詞花古今集

富春漁叟撰

○花起請　妓　小紫

めづらしき花おくらせ參かけなから見まいらせ候。さても近江の關ならではゞかりの御事にこもらせのよし萬づわが身の咎ならでハと是よりさし進らせ候へば罪のほど宣結ハせたまハぬもいとゞ心くるしふころれわし候らへ。世に染守の神とやらんは花の神にれハしまさバ變らぬ心のくまハ通ハせ給へなんをと人づてならぬ便りをのみ待まいらせ候かしく

○上杉畠山の道の記

馴ぬ旅寢の床の露おきふし袖やぬらすらん。日來もてあそひし事なれバ一面の琵琶を馬鞍につけ旅館の月に彈じ給へば王昭君が胡角一聲霜後の夢漢宮萬里月前の膓と胡國の旅に悲しみしも斯やと思ひ知れたり

嵐のおとよ關こえて紅葉ぞ幣帛と手むけ山くれゆく秋のわかれまて身にしふれたる哀にてのがれぬ罪を身のうへに今ハ大津の東の浦はまの直砂のかずよりも思へば多き歎きのな絶ぬれもひそ志賀の浦なぎさに寄る樂浪のかへるを見るも浦やましく七座の神おふしおかみ身のゆく末をいのりても都に又も歸るべき事ハ堅田に引あみの目にもたまらぬ我がなミだ今津海津をすき行バ湖水よ霧のそばたちて波間に見へさる小嶋ありけりな都良香が古へ三千世界ハ眼の前に盡ぬど詠せしのば十二因縁ハ心の裡に空しと云ふ下の句を辨財天のよミ給ひし竹生嶋よと望ミ見てしばらく法施をたてまつる燒ぬ鹽津を過ゆけば思ひ越路の秋のかぜ音ハあらちの山こへて淺茅いろづく野をゆけば末こそ知らね梓弓つるがの津にも身を寄て袖にや涙のかゝるらん稠くまもれる武士の矢田野ハいづく歸る山。名をのみ聞る甲斐もあく治承の乱に籠りけん火打が城を見あぐれば蝸牛の角の上三千界石火の光の中一刹那あハれ仇なる憂世かなと今さら驚ろくはかりなり無常の虎の身せむる上野の原を過ゆけば今ハ我ゆゑ騒かしき月の鼠の根のかぶらいつまで草のいつまでか露の命のかゝるべき迚も消べき水の泡の流れ留まる所とて江守の庄にぞ着にける

○御伽草

○龜の獨言

今日ハ大層いひ天氣だ些とあそびませう。斯うき草の花盛りを見なから甲を干ハいひ心持さ。オヤ〱目高が揃つて出かけ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れたな。オット焼麩を投るなふ崩して投てお呉なさい。全で投ると鯉に斗りいひ事をされます。ヤレ〱御利口な坊チヤンだろ鼈よ御前の鼻の先に藻が附てゐるせ。手を叩くと思つて首を出す奴さ阿房な彼れ拍手の音ざ餌よ貴様れ大層蹌踉な芥にでも酔ふのゐ鰌よ氣を附なさい今鷺が飛で來た。此處へ泳いで來たのれ雛鰻でれないゐ。貴様れ放し鰻ょ捕つふと聞たがもう放されて來ふか仕合ものだ。コレ鯰とちゝくりわふて居るか。彼の鬚の延た男と云たら耻かしがつて蓮の葉の下へ隠れるやつさアハヽヽ

○當て御覧あそばせ

○狐上下を取て踊れば踏前さきを失なふ　花物一ツに考ふ

○三十一日に狐一聲　青物一ツょ考ふ

○いろはほへと　鳥名一ツに考ふ

○夷曲

○寄レ魚ニ戀　歌の屋眞秋

うしや君つゐふ二枚のした鮃烹にてもつゐぬ口とこゝろと

○鰒　眞垣

ふぐくらふ人のこゝろの淺茅はふつゆのいのちを蝶と吸れて

○失題　喜の高

まつ夜半の魂れいつしかぬけいでゝはらわたにしむ曉のかね

○猩々

或る田舎人上野の博物館を見物して歸りければ人々其れ定めし珍らしき物を見しならんと云ば左れバ澤山珍物も見たが第一珍らしかりしれ生た猩々サさとんと繪に書た通りで五人斗り酒を飲て居た。ホウそれれよひ物を見なされた。シテ夫ょれ名でもあるゐ。チヽサ皆な名がある先づ天猩々地猩々内外猩々六根猩々と云ました。フウそして最一人れ。アヽソレハ。チヽそれよ管猩々かんせう〱

◎机の塵

○奥州のかつ゜み゜

藤原の實方中將奥州へ下向のとき土地に菖蒲なきゆゑかつ゜み゜を葺せたりとれ人々云ひ傳ふるとなるが奥州に菖蒲あきに非ず筑紫宗久の説に寛治七年郁芳門院根合に藤原善孝が歌に。

あやめくさひく手もたゆくなゐねのいゐで安積の沼に生けんと讀るれ此の國にも菖蒲のあるにやと年月不審に覺へしのバ此度人に尋ねしにあやめのなきにあらず去ども彼中將君くだり給ひしとき。何のあやめも知ぬ賤が軒端にいかで都の同じ

あやめを葺べきぞとてかつ゜み゜をふかせられけるより之を葺つ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たえたるなりと侍れば俗說の相違を知べしと云々(俗說弁)

○我を去るべし

和論語に西行法師の曰く武士の道我なくして武士になり和歌の道我なくして和歌になるよろづの道我なき方に宿を假ねば其道の達人とはなり難しと

○眞の風流

日本永代藏に云ひぬし連歌師の宗祇法師泉洲の堺よましく歌道のはやりし時まづしき木藥屋に好る人ありて主の句前の時胡椒を買に來る人なり坐中へ斷りて起ち出で胡椒一兩目かけて三文請とり心ろしづかに一句を思案して付ける去とは優美てころざしと宗祇殊の外に賞たまふとなり云々とあり思ふに風雅を好むもの此の志ざしなくては家產を破る基となるん家業を疎そかにして風雅の好む甲斐はあるべからず此は人のしりたる話しながら宗祇の賞られしと云るがめつらしく且つ童子の心得にもとかいつけてと骨董集に見ゆ

◎內外雜報

○西班牙皇帝崩御遺聞

翌二十九日は早天コロンヌ殿に於て最終の祈念式あり九時四十五分より吊砲を連發し各所の寺院に於ては鐘を鳴し以て大喪を表せり御柩は十時を以て馬德里の皇居を發し肅然ガール、デユ、ノール(停車場の名)に向ひて進行せり而して其の通路には精選兵両側に整列し以て非常に備へたり」御柩の停車場に着するや內閣總理大臣サガスターは諸大臣を率て場所に奉迎し御柩を瀛車に遷し國中の貴族、司法大臣、代議士、元老議員、宮內士官等と倶に瀛車九輛に乘し御柩を奉送せり但し御柩車には宮內の顯官のみ陪乘し」午後一時御柩をエスキユリヤールの停車場に下し奉つり同所の寺院に於て祈禱の式を行ひ更に歷代皇帝の御陵地に遷し埋葬の御式あり今之を略記せんに宮內大臣は先づ御柩を開きて龍顏を外に見はし奉つり司法大臣は之を儀仗衞兵に示すに衞兵は正に皇帝の御遺骸なる旨を證明し今や司法大臣に交付するの誓詞あり此の時斧戟兵の司令官は御柩に近き低頭陛下を呼ふこと三回に及ぶも御答詞なきを以て大聲左の語を述ぶ

陛下の御答なきを以て觀れば陛下は實に崩御せられたる者なり

語了るや司令官は直に其の司令旗桿を折り之を御柩の下に投ず兹に於て宮內大臣は御柩を蓋ひ鑰を僧正に付し尊骸保護の責に當らしめ以て儀式を決了せりと昨年十二月二日佛國ルタン及び同三日露國ジユールナール、ド、センペテルスブールにみゆ　(本年一月二十七日官報)

○束髮と化粧の書　此ほど神田雉子町の圖々社より出版になりし西洋束髮秘傳に附書の化粧秘傳を弊舍へ一部贈られましたが此書は當時西洋に行なはるゝ束髮の方法と化粧のなし方まで自分で出來やう詳しく記し其うへ石版摺圖畫まで加へられた誠によひ本であります

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

地方愛讀諸君の中本誌本號まて代價御拂入の分は本號限りにて發送濟に付至急御入金可被下候若し御送金無之に於ては發送見合候間豫て此段申上置き候也

會計掛啓白

廣告

佛國女學士路易達爾克原著 伊藤重固君譯
東京大學教授櫻井省三君閲 山成哲造君校

西洋束髮秘傳 附 化粧秘傳 全一冊美本

密畫廿七入 定價六十錢郵税共六十四錢

此書は西洋に名高き佛國風の束髮及化粧の秘法を示すものにて種々の束髮を自身に爲し得る法を説明し其他髮の療治法を數多傳授せり又化粧術は我邦にて思付さる奇術多し御講讀の上御試驗あらんことを乞ふ

大賣捌所 東京神田雉子町 團々社支店

小牧櫻泉先生序 藤野海南先生序 松村南涯先生著

○詩文用材 故事詳解 全一冊 定價郵税共廿四錢 郵券代用不苦

詩ヲ賦シ文ヲ作ルニハ典故ヲ解セザルベカラザルハ固ヨリ言ヲ竢タズ然ルニ世ニ典故ヲ解釋スルノ書甚タ少シ一二之アルモ粗漏杜撰概ネ看ルニ足ラズ此書ハ南涯先生多年六經百家ノ書ニ就テ典故ヲ剔抉シ之ヲ乾坤時候等ノ部門ニ分チテ一々解釋ヲ施シタレバ典故ヲ捜索セント欲スル者ハ一タビ卷ヲ繙カバ地ニ俯シテ芥ヲ拾フヨリモ易カラン事實ニ文人韻士座右一日モ欠クベカラザルノ珍書ナリ

發兌書肆 東京馬喰町貳丁目 石川治兵衛

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 山田常治

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新葭町 辰明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殻町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂閣田
同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 元數寄屋町壹丁目 東海堂
同 神田區淡路町 巖々堂
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後長岡裏三之町 大橋書房

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY